

平成30年度第3回白井市総合計画審議会

議事概要

日時：平成30年7月13日（金）

午前10時

場所：白井市役所本庁舎1階
会議室101

日時：平成30年7月13日（金）午後10時～午後3時50分

場所：白井市役所東庁舎1階 会議室 101

出席者：【委員】

関谷 昇会長、助友 裕子副会長、藤田 均委員、野水 俊夫委員
近藤 恭子委員、橋本 哲弥委員、西飯 峰委員

【事務局】

中村課長、富田主査、多納主事

傍聴者 3名

1. 開会

【事務局】

平成30年度第3回総合計画審議会を開催いたします。

2. 議題

(1) 評価の実施

【会長】

それでは、今日は二つの施策を予定しております。一つは戦略の1-2、働く場を生み出すまちづくり、それからもう一つは、午後になりますけれども、戦略2-2、みどりが価値を生み出すまちづくりという、この二つを今日は予定しておりますので、よろしくお願いたします。

進め方としましては、まず、働く場を生み出すまちづくりについて、まず各委員から外部評価シートをご持参いただいているかと思っておりますけれども、それぞれ各委員のほうから評価と、それに対するコメントをそれぞれおっしゃっていただいて、それをまとめながら、委員間でそれぞれ深掘りを行うということを予定しております。

そのそれぞれの委員さんの評価を踏まえた上で、今後に向けた提案について、もっとこういうことをやったほうがいいのか、こういうことをすべきじゃないかといったことも合わせて委員の中で共有できればというふうに思っております。

それを踏まえた上で、総合評価を決めるということになっておりますので、それぞれの評価シートの中で最後に、総合評価というものがあるかと思えますけれども、これを一応この審議会として最終的に決めるということです。

進め方について何かご質問、確認しておきたいことはありますでしょうか。

協議をする中で、今日も担当の職員の方々においでいただいておりますので、何か改めて確認しておきたいことがありましたら、適宜ご質問のほういただければと思いますので、一応そのような形で進めていきたいと思えます。

では、お手元にこの外部評価シートのほうを準備いただいて、まずはそれぞれ委員のから評価のほうを伺ってまいりたいと思えます。

【委員】

今回、この総合計画というのは、白井市のいろいろな審議会の中で一番上位にあるということなので、意欲を持って参加したつもりなのですが、なかなか宿題がたくさんあって弱ったというのが前置きです。

それで、この働く場を生み出すまちづくりということはどういう位置づけなのかというと、若い世代の定住プロジェクトなのだと、その中の働く場を生み出すまちづくりなんだ、そういうことで四つ挙げているということです。その中で一番先に工業団地における市民の雇用拡大ということでありますが、どれもこういう機関の中でやってはきたのですが、なかなか思うように行ってないのではないかなという思いをしております。

それをこれから具体的にまた話をしていくことにはなるのでしょうかけれども、そんな意味では、最初の目標を実現する取り組みとなっているかということ、まだまだちょっといろいろ議論しないといけないかなと。この辺のところでは自分としては評価としては今言いましたように、どれも一応Cでつけました。

周囲にわかりやすい記載となっているか、この辺もこの若い世代定住プロジェクトという意味からすると、いかがなというか、これから議論してもうちょっと市民にアピールしていくようなものにしてほしいなというふうに思っています。

それでいて、総合的に考えるならば、市がこういうことを一生懸命やっているのだなというのがわかった点は、私はいいなと思えました。

位置づけとして、やはり住みやすいとか、若いものが移るということによって、環境がいいとか、そういうことだけでなく、働く場がしっかりあるということが大事だという意味で、こういうことを若い世代定住プロジェクトの中に大きく取り上げているということはいいいことじゃないかなというふうに思えます。

ただ、白井市民が、白井の商店や白井の工場や何かにすぐに多く勤めるかどうかはなかなか難しいので、やはり鎌ヶ谷であり、近隣の市町村などと連携しながら、そういう働く場を近くにつくっていく、お互いでつくっていくみたいな、そういう視点がもうちょっとあってもいいのではないかなというふうに思っております。総合評価としてはBというこ

とでつけました。以上です。

【会長】

最初は一巡目ということで、それぞれ、主立ったポイントについての評価を言っていたのですが、事務局、全評価言ってもらったほうがいいですか。

【事務局】

基本的には総合評価のところを中心に、あとは適宜。

【会長】

一応、その施策全体の評価ということをまず一巡目、ちょっとご発言いただいて、あわせてそれぞれの項目で、特にこの部分については、まずいんじゃないかとか、ここは非常に高く評価できるんじゃないかといったことを出して、それぞれの委員さんなりのウェイトを持ってご発言をいただければと思います。

あわせて、その評価についての理由を、こういう部分がまだちょっと足りていないのではないかとかいうふうなことをご指摘いただきたいと思います。

2巡目は、そのことを踏まえた上で、今後に向けてどういうことをすべきかという改善策を自由にお話いただければと思います。多少、協議も重ねながら、その辺も評価として盛り込んでいくと。この後、予定していますワークショップは、その委員さんから出された改善点をもとに、それを深掘りしていくということになりますので、2巡目は、そういう改善点、ご提案、要望等含めてご発言をいただければというふうに思っておりますので、一応そのような形で回していきたいと思えます。

続きまして、委員、お願いします。

【委員】

私、商工会の理事として、この委員会に参加させていただいておりますのですけれども、今回、いろいろと参加させていただくに当たって、非常に市としても、行政としても大事なことをやられているのだなと。

今回の総合評価といたしましては、Aのほうにつけさせていただいておりますのですけれども、これはなぜかという、やはりまだまだこれから期待ができるだろう、やっていかなきゃならないことがたくさんあるだろうということで、Aのほうにつけさせていただいております。

中身といたしましては、本当にCもあればBもある、残念ながらAのところはちょっと少ないのですけれども、でもやはり自分たちがやっていかなければならないことをやっていくことによって、この白井市が発展、またゆとりがある生活に向けていくためにもこういうことが必要だろうというふうに思っております。

それに、やはり自分がいかにどう活動していくかにも関わっていきますので、こういったものを参考にさせていただきながら結果を出していくということが一番大事なのかなと思っております。

【会長】

ありがとうございます。

続きまして、委員、お願いします。

【委員】

全体評価として、私は自分が、若いお母さん、赤ちゃんの訪問にかかわっている関係もあって、そういう立場から考えてみますと、若い世代定住プロジェクトという点で、例えばお父さんは都内に働きに行く、あるいは近隣の市に車で働きに行くとか、多岐にわたっているのですが、お母さん方は多分、子育てがある程度済むと、働きたいという方が今多いのですね。

そういう点を見ますと、働く場を生み出すまちづくりというのは、今回、市が幾つかポイントをつくってくださっているのですが、まず、課題が多いのですけれども、いろいろな視点から問題を捉えて解決策を生み出そうとしている点で評価ができると思いますので、私は一応Bという評価にさせていただきます。

結局若い世代定住というところで、家族がいずれそこでみんな、お母さんも働くようになるかとか、正社員かわかりませんが、その子どもたちもここが気に入って、例えば1回外に出るけれども、親がいるので、また戻ってきて働くという方も結構見えています。

あるいは、ご主人は都内なのだけれども、娘さん夫婦が戻ってきて、娘さんはここでパートをするとか、結構そういった働き方を見えていますので、いろいろな考え方ができると思っています。

その点で言うとBかなと思っていて、あと細かいことはちょっと今言わなくてもいいのかなと思いますので、そんな感じで評価させていただきました。

【会長】

ありがとうございます。

では、続いて、お願いします。

【委員】

働く場というところで、私は市民代表という形で来ているのですけれども、農業者でもあるので、そういった視点からも、働く場をつくるということは、すごく大切なことだと思っています。

それで、総合評価としては、私もBというところで書かせていただきました。

取り組み自体の方向性は、すごくいろいろ多岐にわたる取り組みをされていて、まさに働く場をつくるための取り組み、雇用拡大という部分もそうですけれども、そのマッチングのセミナーをやっていただいたりとか、農工商連携という話、さっきも出ましたけれども、そういったところの取り組み、産業振興課がやったやつだと思うのですけれども、そういうところに私自身もちょっと呼んでいただいて、そういうところでさまざまな起業家の方であるとか、別の業種の方とかと実際お話をさせていただいて、すごく示唆に富んだ

意見がいろいろ出てきて、農業者としても、こういうことは必要だなとは思いました。

ただ、そういった場を實際設けられていたりとか、前回の会議で話したウェブサイトのことなんかに関してもそうなのですけれども、それをやって何か結果が、もちろんこれからののでしょうけれども、そういった部分が伴っていないなという部分と、取り組みはいいのですけれども、それが正しいというか、筋としていいのかなという部分に対して、ちょっとクエスチョンマークのつくところも多々あるので、ちょっとこういう評価にさせていただきました。以上です。

【会長】

続いて委員のほうからお願いします。

【委員】

おはようございます。

私もBというふうにつけさせていただいたのですけれども、私自身、市民の代表として来ているのですが、コミュニティデザイン、コミュニティ開発の政策について専門にしているので、ちょっと何というか厳しめになってしまうのかなというところがあるのですが、私自身、夫自身が市内で働いていないことから、この政策が、実際動いているところを実感しにくいというところが多分一番問題なのだなというふうに思っています。

ベッドタウンなので、必ずしもここで働くということを想定していないで移住してくるという方もいらっしゃると思うのですが、Bにさせていただいた一番大きな要因が、見えにくいというのもそうなのですけれども、全体がどういう方向性に進んでいくのだろうかということが具体的に描きにくいというのが一番ありました。

この取り組み1、2、3、4が、さかきほど委員さんが多岐にわたるとおっしゃっていたのですけれども、この四つの取組みを串刺しするものだとか、この四つの中で特にこれを重点にするというようなことがないので、この四つの取り組みがどういうふうにも有機的に機能して、この取り組み目標というものを果たして、戦略1の若い世代定住プロジェクトが具体的に進んでいくのかというのがよく見えない、よく具体的にわからないというのが印象なので、Bとつけさせていただきました。以上です。

【会長】

ありがとうございました。

では、続いてお願いします。

【委員】

お時間いただき、ありがとうございます。

私の総合評価はBにさせていただいておりますが、発展性が見込まれるということで、条件つきBという形にさせていただきました。

それで、それはなぜかというところ、いろいろと試行錯誤して、アイデアを職員の方が振り絞って新規性のある事業をやってくださっているなというところをまず評価しないと

いうところがありました。

ところが、今、委員さんがおっしゃられましたように、やった結果がすごく見えにくいというところが、現段階では大きな課題として挙げられるかなと思っているのですね。

ということは、例えばこの施策評価シートの中にも評価指標が一応ありますけれども、でもやっぱりこの事業それぞれがどの方向を向いているのかなという流れ、ロジックが目で見えてわかるようにするためには、こういう結果が出ましたというところを見える化していただくと、市民の方にも説明責任が果たせるのかなと思ったのですね。

そういう意味で、もしかしたらこの事業をやってみたけれども、あまり何か方向性につながっていなかったという施策、事業ももしかしたら出てくるのかもしれないのですけれども。

でも今やっている事業を無駄にしないためにも、そういった評価はしっかりと見える化して、やっていったほうがいいんだろうなと思います。

そのときに、この後のワークショップに向けて、私ちょっとここでリクエストなのですが、傍聴も入らないということで、できるだけ当事者である職員の方の困りごとをお聞きして、みんなで、じゃあそこをどうしようかというふうな話し合いができるといいのかなと思っています。以上です。

【会長】

ワークショップについては、まさに今ご指摘いただいたように、これがあるから無理なのだよとか、ここがネックになっているのだということもどんどん出していただいて、その上でできることを考えていくというふうなことをしていきたいと思いますので、また追って確認をしたいと思いますけれども、そんなイメージでいただければと思います。

最後、私の評価ですけれども、基本的な捉え方、あるいは課題の見出し方という点については、ほぼほぼ皆さんと同じではあるのですけれども、基本的な評価としては、私はC評価にさせていただきました。ややちょっと厳しめ、Bに近いCというふうにイメージをしていただければと思うのですけれども、確かにいろいろな取り組みやられているということはすごく評価できる場所かと思っています。

やはりこの工業団地を抱えているということの優位性というものをどういうふうに捉えていくのかということは、白井市の雇用政策という点で言えば一番大きな課題ですし、だからこそ、工業団地の持っている可能性、あるいはポテンシャルティというものにどういうふうにさらに光を当てていけるかということは大きな課題になっていて、その方向に向けたさまざまな取り組みをされています。

特にこういう関心を持ってもらうという意味での見学会とか、やりとりをするような場を設けていくというのは、その大きな一歩であると思いますし、さらには市外の企業にとって、工業団地がまたどう魅力あるものに映っていくのか、そのための情報発信とか環境整備とか橋渡しというものをしていくという意味でも、非常に大事な取り組みをされています。

ると思います。

また、ご指摘あったように、若い世代定住プロジェクトという戦略の中での位置づけですから、若い方々がどうやって定着していくのかという具体的な戦略にならないと、こういうことをやりました、で終わってしまっただけではやっぱり不足するというところがあります。

私がC評価にした一番の理由というのは、いろいろ取り組みがなされているのだけれども、それが若い人たちの定住に具体的にどう結びついていくのか、例えば起業のためのセミナーをやったり異業種交流会のようなものをやられたり、非常に大事な取り組みですけれども、それによって次のどういう一歩を踏み出すことにつながったのか、まずはお互いどんなことを考えているのか、意見交換しよう、相互理解していこう、あるいはどんな考え方をしているのかということをお互いに確かめ合っていこう、これは交流会の例えば最初の一歩であったとするならば、それによって、その次のステップにどういうふうにつながるのか、あるいは先ほどから何人か委員さんがおっしゃられているように、具体的に次なる一歩をどういうふうに踏み出すのかということにつながっているのかどうか、ここは非常に大事だと思います。

これがやっぱり今の政策評価というのは、単にアウトプットだけではなくてアウトカム、つまり現実の何がその施策・事業をやったことによってどう変わったのか、この変わったということに焦点を合わせて評価をしていくということをしなければ、やはり次につながっていかないというところがありますので、その結果が私個人としてはそういった評価をさせていただいたところであります。

あとは、やはりこの取組1、2、3、4というのが今のところあるわけですがけれども、戦略ということを考えていった場合、これもどういうふうなつながりのもとに展開されているのかということも、やはり大事な視点になってくるかと思えます。

こういったことをやることによって、子どもたちは市内で働くということについて、こんなイメージを持っていましたというように、白井というものにどういう魅力を膨らませているか、白井で働くということはこういうことだという、何かそういうイメージがさらにつながっていく。

さらに、市外に出た人であっても、何らかの段階においては白井に戻ってきたいなという、戻ってきたいと思える働き方というのはどういう働き方なのか、これを具体的にその世代に示し得ているのかどうかというふうな、そういうつながりと言いますか、子どものうちから段階的に白井で働くということをしっかり受けとめていく、考えていく、魅力を膨らませていき、そういうことを一步一步積み重ねていくということが必要なのかなというふうに思いますので、その点、さらに改善の余地がありますということで、一応そういった評価をさせていただいたところです。

今、各委員から評価を伺いましたけれども、最終的な評価は最後に回すとして、次いで、今出していただいた評価を踏まえながら、今後に向けてどういった方向性で行くべきなの

か、あるいはどんな取り組みをしていったほうがいいのか、この辺は各委員からご提案を受けたいと思います。

先ほど申し上げたように、それをこの後のワークショップのほうでさらに揉んでいくということにしたいと思いますので、ご提案については自由に、小さいことでも構いませんし、大きな話でも構いませんので、自由に出していただいて、この後の議論の素材にさせていただければと思いますので、お伺いしたいと思います。

あと、各委員がご提案いただく中で、私もそれ考えていたということがあれば、どんどん、必ずしも順繰りに回る必要はありませんので、話を絡めていただきながら、いろいろ話のほうを膨らませていければというふうに思っています。

じゃあ、どなたから行きましょうか。

【委員】

この後のワークショップの進め方について、どういうふうなイメージで進めていきますか。

【会長】

簡単にこんなイメージで説明をちょっとお願いします。

【事務局】

具体的なイメージとしては、資料にあるように、この総合計画審議会の中で、この後どういった今後の改善に向けて意見を付すかということを経験していただくのですけれども、そのまとめていただいた意見、それぞれに基づいて、具体的に今後どういうふうにやっていけばいいのか、誰が何をどうやっていくのかというところをどンドンざっくばらんにアイデア出しをしていただきます。

ただ、その具体的な取り組みをするにしても、当然、人であったり物であったり金であったりといった、いろいろな制約がありますので、取り組むに当たっての課題というものも出していただいて、課題をどう解決していけば、ご提案いただいた取り組みができるのかというのを、解決策も含めて出していただくと。出された意見の中で取り組めるものから、市としては今後の取り組みに順次生かしていきたいというふうに考えています。

【会長】

この時間の中で改善提案事項、それぞれこんなふうにしていったほうがいいのではないかと、いろいろ出していただいて、それをもとにワークショップのほうに入っていきます。

ワークショップのほうでは、その提案事項をさらに深掘りして、その取り組みというのは、誰がどんなふうに進めていけばいいのか自分たちにできることをいろいろ考えていく必要があるという、この部分は行政が頑張るよ、この部分は市民が頑張ろうよというような、そういうふうに具体的に誰がどんな形でそれを進めていくことができるのかというふうな、ちょっと深掘りをしていただきます。

同時に、それをやっていくにしても、金がないのだよとか、人手がないのだよとか、こんな制約があるので、この辺をぜひ職員の方々の本音を出していただいて、できないものはできないとおっしゃっていただいても構いませんけれども、その辺を少し、そういった視点からまた深掘りをさせていただいて、最後はそれを踏まえながら、それでもできること、こんなところがあるのではないかと、まずはここからちょっと始めていってみませんかというふうな形で最後取りまとめをできればというのが、一応ワークショップのイメージです。

【委員】

ありがとうございます。

一つ提案なのですけれども、こういうプロセスを踏んで、施策を最適化していくときに、課題についての解決策を見出すこともすごく大事なのですけれども、既にうまくいっている部分をもっとうまく生かせるようにするという話し合いも必要だろうなと思っているのですけれども、そのあたりはいかがでしょうか。

【会長】

そこも適宜盛り込んでいただいていると思います。改善事項の中で、ここで今うまくいっているのだけれども、もっとこうするともっとこんなこともできるんじゃないかということも、ぜひその改善事項の中に一緒に組み込んで、いろいろご提案をいただいて、今おっしゃったような形で膨らませるといふふうに、それは全然問題ないと思います。

【委員】

ありがとうございます。

【委員】

この働く場のところで取り組みが四つあるじゃないですか。ご意見も出たように、1から4までそれぞれがかなり独立的な取り組みのような感じがするのですね。だから、そういう意味からすると、どれを重点的というか、それでいて予算とか何かを含めると総合的にこうだよということ、なかなか議論を進めていくのが難しい、順を踏んでやっていくのかということのイメージなのではないでしょうか。

【会長】

この1-2については、取り組みは四つあり、しかもそれぞれ独立性が高いというふうなところがありますけれども、それぞれ委員さんのほうで、その1から4それぞれに改善点を言いたいという場合は、それぞれおっしゃっていただいてもいいと思いますし、自分は特に、例えば3の部分だけに特化して提案していくということでも構いません。

どういう提案をされるかということは、委員の判断に基本的にはお任せをしたいと思います。

【委員】

私としては、活動について評価される側にもなるときもあるので今回のこういった場も

うまく活用させていただいて、非常に参考にさせていただきたいと思います。

働く場を生み出すというとなると、今の段階では、新しく若い人たちが来て働きたいなという形は、とても無理な状況にあるわけですから、その状況をよくするためにもこういった活動も必要かなというふうにあるのですけれども、工業団地協議会の会長さんがおられるのであれですけれども、そこ一つに絞ってしまうのも大変難しいかなという状況にあるわけなのですね。

じゃあ、どうすれば若い人たちに働いてもらえるようになるのかとなると、新しい事業を考えて若い人たちの意見を取り入れながら考えていかないと、かなり難しいのではないのかなと。

今すぐにできるものではないので、少しずつ手を打ちながら、しっかりとした事業をつくっていく、行政だけの話ではなくて、我々事業者も一生懸命考えていかないと、この白井市の発展につながっていかないとということもあるので、非常に私としては、評価しながら評価されるという立場にありますので、ちょっとしっかり、後ほどまたワークショップの中でもお話できればいいかなと思います。

【会長】

ぜひ、その両方の見方を踏まえながら、ここは徹底して評価する側でおっしゃっていただいて構いませんので。

今、お話あったように、新しい事業体をつくっていく必要があると、非常に大事なご提案の一つだと思いますので、そういった形でほかの委員の皆さんもいろいろ、こんなことしたほうがいいのではないかということ、実現可能性は多分いろいろあり得るところで、そういったものを含め、いろいろなものがあって構いませんので、自由にご提案をいただければと思います。

はい、どうぞ。

【委員】

もしかしたら質問になってしまうかもしれないのですけれども、全体を通した戦略だとか方向性というのが見えにくいよねという話があったのですけれども、柏や印西と張り合っても仕方がないわけで、近隣の自治体で、同じ規模で同じような課題を抱えている市町村があると思うので、そこともっと真剣な勉強会をよその成功事例などから学ぶということはできればいいのかなと思います。

そこに絡めて、取り組み1のところ、どういう若い世代の方が白井工業団地に魅力を感じられるのかなと思ったときに、一つ、工業団地で働いているという人で、外国人の方が割といらっしゃって、外国の方につながるアプローチというのがあってもというのが一つ。

あと、取り組み4のところ、子育てをしながら働きたいと言われている方の需要はすごくありますが、全員が市内とか近隣で働く必要はなくて、やっぱり東京にある大企業に

は勝てないと思うし、定期代とかも出ているわけですし、その場合にお母さんが働けるといところでフェミナスがあると思うのですけれども、私もフェミナスのマルシェの企画運営講座に一、二回出て見たんですけれども、あれに全部出たからといって起業できる感じは全然しなかったもので、せっかくこれをやられているのであれば、もっと本当に起業したいと思っている方に向けた支援をした方がいいのではないかと、というのが参加してみた印象です。

【委員】

私としては、大きなものを一つ事業でというのは、今の白井市でそういうことをやるのは、ちょっと全く想像がつかないので、本当に白井市に足をつけて、ずっといろいろなことをして暮らしていただくと、本当に細かいところでいろいろなことを少しずつやっていく中で、働く場を生み出すというのは割と今はいいのかなと。この取り組みの四つというのも、そういう点ではちょっとわかる気がするのですね。

まず、例えば3だったら、16号沿いに企業を誘致するような計画がこれからなって進んでいくとすると、そこにまた企業とか何かできて、そこに人が集まるんじゃないか、雇用が増えるんじゃないかというのと同じように、例えば細かいことで、ちょっとあまり現実性がないかもしれないのですが、幾つかありまして、例えば病院も二つ今できていますし、ほかにも介護施設も結構ふえてきていますので、そういう雇用の場をもっと発信してつくるというか、そういうことができなくはないかなというふうに思います。

また、休耕地や空き家があるのであれば、きれいな空き家に1泊ぐらいで週末に農業に興味があるとか、梨のことに興味があるという方も主体でいいのですけれども、そういう方を募集して、週末だけ農業をしに白井市に来ませんかみたいな、そういう発信の仕方をするのも、結構面白いのではないかなと思います。

そこから例えば家族で移住してみようとか、大きく人をバツと集められるものではないのですけれども、細かいところで考えられることが幾つかあるのかなと。

そういうアイデアを持っていらっしゃる方は、多分市民には結構いるのではないかなと思うので、職員の方と一緒に考えながらやっていくことは、これから可能かなと思います。そういうふうな感じで働く場をつくるというのもいいと思うのですけれども。

【会長】

どんどん出していただきたいのですけれども、ほかにいかがでしょうか。

【委員】

市民参加型の事業体というのもあってもいいのかなと思っているのですね。

内容にもよるのですけれども、市民が利用する主な事業があるとしますよね。それは例えば行政が事業を行うのがいいのか、ある大きな企業が事業をやるのがいいのか。

一番私がいいと思っているのは、行政がある事業体をつくって、そこに市民が利用しながら利益を出して行って還元していく、そこに事業が大きくなることによって、就業もで

きます、働くこともできますよというのを、お互い市民も参加しながら働き場をつくっていくという方法もあっていいんじゃないのかなというふうにも思っているのですね。

その形はどういうのがいいのかというのは、一生懸命考えていかなければならないがそういうやり方もあっていいのかなというふうに思っているところでございます。

【委員】

今、委員おっしゃったこと、すごく大切だと思っていて、いろいろな形があって、NPO法人とかもそういう形になると思うのですけれども、私も、割と業界にしては若い年齢で、いろいろ役員の仕事とかやらせてもらっているのですけれども、やっぱり農業者の内側からというのだと、農作物をつくるプロではあるのですけれども、ほかのものに利活用していくというアイデアがどうしても出てこない、集まっても、そんなのは俺たちにはできないよなど、それで話が終わってしまう。

何か情報に接しても、どこか他人事というか、自分たちとは全然違う世界の話をいつもしているような形で捉えているが、そんなことはなくて、農業者でも、企業に勤めて戻ってきている人間もいれば、院卒とかでマスターとかドクターまで行って、農業をやりたいと戻ってきた人もいるのに、戻ってきたらみんなそんなテンションで、ちょっとおもしろくないなとかといった感じで、業界としては、旧態依然とした考え方がある中で、ちょっとくすぶっていると言ってはあれですけれども、そこを内発的に若い人たちが取っ払ってできるかといったら、やっぱりその岩盤は分厚くて難しい。

そこで全く別の業界のアイデアとかも入ってきたりであるとか、産業振興課や県の出先機関の農業事務所から提案が来ると、結構、外からの話だし上の人たちにも言えるよねとか、ほかから来た意見があるから動かすことができる、結びつくというようなことも多いので、実はちょっと私、若い人たちとPRの仕事やっていたりするのですけれども、そういう中で、きのう、ある課からすごく魅力的な提案をいただいたのですけれども、それも結局、ちょっと父親たちがいるからできないとかで、そこでもつながらない。

そこにもう1個誰かが、民間の人間であったり、もしかしたら別の行政の課とかが加わってくれることによってすごくつながって行って、それこそ前にも話したような異業種文化の橋渡しがあれば、すごく結実するような話が、僕は七、八年この仕事をしてみてすごく多いので、何が、どうしたらそこがうまく連携できるのだろうかというのが、常々、毎年思うことが多い。

そこが、すごいチャンスが来たのだけれども、またどこかに流れていっちゃったので、本当にこれつながってれば、本当に白井市のまちというのは、もっと知名度が上がったし、もっとおもしろくなったなという話も本当にたくさんあるので、そういうところとつながるためには、やっぱりさまざまな工も商もそうですし、もしかしたら行政の人も農協さんもそうだし、そういう既存の関係機関じゃない人たちとつながって、有機的にできたらもっといろいろな展開があるので、人を育てるという意味では、そういった部分との接

点がすごく欲しいし、何かつながれる場が、それからこんな話があるよというところをうまく、若い人だけじゃないのですけれども、業界全体に聞いてもらえるような場があればなと思ったりはします。

【委員】

多分、取り組み2の話とすごく近い話だと思うのですけれども、あるとき私が質問したら、これは公開されていますというふうに教えていただいたのですけれども、広報紙とかに出ないから、公開されていてもわからなかったりということがあります。

あと一つ、印西市にあって白井市になくて残念なものの1個が、市民活動支援センターが印西市にあって、そのWEBページに行くところとすごく充実していて、助成金のところをクリックすると情報がバツと出るみたいなのがあって、もしかしてそこに相乗りできたら、いろいろなことが不思議な切り口で動き出して、何か楽しいことがたくさん起こるかなというのは、起業もそうだし、いろいろ解決できそうなので、白井も割と市もフットワーク軽く動いるので、できるんじゃないかと思うんです。

【委員】

今、ちょうど取り組みの2番の話が出たのですけれども、白井市でもどうしたら商工が発展していくだろうかということで、今から、5年か6年ぐらい前になるでしょうか、商工についての振興委員会というのができました。その日に、やっぱり白井は産業という意味では、農業は非常に重要だねということで、商工だけでなく、農業の人たちも入ってもらって、それで産業振興という意味で、ここにありますような産業振興ネットワークというのが開かれるようになります。

今話を聞いていて、年配者が悪いというわけではないのだけれども、長年経験していたような方が参加されるので、梨をどうしようかという話が出ると、なかなか話が進まない。

要するに、基本的には農地、梨畑を広げるわけにもいかないし、広げようとは思っていないし、梨づくりをする人たちの後継者も少ないし、どうしたらブランド化していくのだろうかという議論をしているのだけれども、結論へたどり着くのに、相当時間がかかることと、もう一つ今、違った切り口で何か取り組んでいくということは、なかなかスムーズにそこから出てきていない。

だから、白井市も一生懸命取り組んではいる。そういう意味では、4番についても新しい起業家の方、去年の暮れですが、随分新しい、こんなにいろいろな方が起業しようとして頑張っている若い人たちがいるのだなというのは感じました。

【委員】

一つ、梨だけを見てしまうのではなくて、梨をこういうふうにご利用するととってもいいものになるよねという形のものがもしできると、また非常に伸びやすくなるのかなというふうに思いますよね。

だから、いろいろなところでいろいろな意見を聞かれるというのは、非常に大事なことですし、いいことだと思います。

梨は、本当に白井市も大事にしているものですので、ぜひそういった伸ばす方法というのを考えていただけたらと。そのぐらい思って、前向きにやっついていかないと、梨畑も伸びていかない、後継者も出ていかない、後継者が出るような取り組みを考えていただけると非常にいいのかなと、そうすると、また白井市も伸びていきますよ。

【委員】

でも、いろいろな価値をつけるということは大事で、今おっしゃったような、農業の話になっちゃったから、しちゃいますけれども、農作物をつくる、売るだけじゃなくて、実際にいろいろなアプローチあって、オーナー制であるとか、体験農園であるとか、とにかく見せ方はいろいろあると思うので、農作物をつくる以外の価値を乗せよう、そこに今その価値を消費者の方たちがすごく求めている部分もあるので、梨が売れないじゃなくて、梨が売れないなら、梨畑自体をコンテンツにしてしまうとか、そこで働いている人間自体をコンテンツにしてしまうとか、そういう切り口いろいろあると思います。

実際、そういう取り組みを一部ではやっていますし、私自身も自分の農園ではやってはいますけれども、だったらこういうことをやらないかというところにつなげていきたいのですけれども、諸般の事情があって動かないので、そこは、さっきの話に戻ってしまいますけれども、内発的な取り組みでは難しいので、行政のお力もかりたいし、商工の力もかりたいし、さまざまな方のお力をかりたいなと思っていますところですよ。

【委員】

私、実は秋口に買った梨、まだ冷蔵庫に入れてあるのですよ。まだ二つぐらいあって、何かそれだけ日がたっても、旬のときに食べなくても、冷蔵庫に入れて、これだけでもたせて、こういうふうにご利用すれば何か使えますよねというのを、1個ずつちょっと切りながら食べてみようかなと思っているのですけれども、そういうのをちょっと考えて、缶詰はダメなのですかね、桃とかもあるじゃないですか。

だから、そういったちょっと一加工することによって、もっと生きるんだよというのが生まれてくるといいかなと思っています。

【委員】

あともう一つ付け加えておくと、産業振興ネットワークでは、今回、観光という意味で、そういう切り口で前回は議論しました。

その中で、梨の農家さんの話が出て、やはり非常に白井の梨は、例えば鎌ヶ谷、千葉に比べて白井の梨はおいしいのだよという委員の方もあったのですけれども、そういう意味では、そういう誇りを持ってやっているのだから、梨畑に人を入れたくない、踏み込んだりすると、おいしい梨づくりに精魂込めてやっているのだから、だから観光農地は農業としてはいいですよということを聞いて、でも、そうだったら、この区画だけでは人を入れても

いいということがあってもいいのではないかなというふうな意見等の議論もしたりしておりました。

【委員】

あともう一つなのですからけれども、梨に関して。

環境にもかかわってくるのですけれども、ミツバチはどうなのですかね。今、非常に少なくなっているのですけれども、梨園に行くと、ミツバチがすごくいるよねとか、何かそういう特徴が白井市の梨園なんかにも出てくると、非常におもしろいのかなと。

【会長】

具体的なアイデアは、いろいろこの後のワークショップでも出していただきたいと思いますが、一応、この施策として今後、改善、提案等、もしほかにありましたら。

よろしいですか。

じゃあ、時間の関係もありますので、ちょっと最後に取りまとめをさせていただきたいと思います。

まず、総合評価ということですからけれども、5人の方がB評価、それからA評価とC評価が1人ずつということですので、全体を踏まえて、総合評価としてはB評価ということにさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

取り組み内容については、それぞれ多角的な形での取り組みを展開しており、これがまた今後どういうふうな広がりを見せていくのか、可能性を持っていくのかということとはもっと詰めていく必要がありますけれども、一応、そういった今後の方向性への期待ということも含めて、B評価をする方が多かったというところかと思います。

課題としては、この四つの取り組み全体を貫く考え方とか、コンセプトという部分が少し弱いのではないかと。

さらには、個々の取り組みについても、それぞれやられてはいるのだけれども、具体的に何を書いているのか、何が変わっているのか、そういう具体性という点で、もっとそれぞれの取り組みを明確化させ、次につなげていくというふうなことが必要なのではないかとということもご意見としてあったかと思います。

あとは、それぞれの取り組みの内容をさらに今後どういう形で膨らませていけるかということで、今後、改善点ということで、これはいろいろ出させていただきますけれども、ざっと簡単にまとめながら取り上げて整理しておきますと、一つは、白井で働くということをどういう風に捉えていくのか、さらにはその中での視点、例えば子育てをしながら働くだとか、あるいは外国人の方々の働き方だとか、いろいろな視点からの働き方というものがあるべきかということをしっかり掘り下げていくということが必要なのではないかと。その中で、インバウンド対応だとかライフワークバランスだとか、いろいろな論点がそこにかかわっていきますけれども、そういう働き方というものがあるということ。

それから、こういう異業種交流のような場が開かれているというのはいいのだけれども、

もっと踏み込んで、積極的な取り組みを具体化していく橋渡しとか支援というものが必要なのではないかと。

今、そういう意味でいろいろな交流は始まっている、いろいろな場や機関がつくられているのだけれども、それを具体化していくための次のステップ、言いかえれば第2ステージというか、そういう部分を今後どういうふうに膨らませていけるかどうかということも大きな課題なのではないかと。

その橋渡しのあり方というのはいろいろあり得るところですけれども、それを練る場というものがないと、なかなか前に進んでいかない。断片的にはいろいろその都度都度、出てくるのだけれども、それをもっとつなげていこうというときに、それをどうしていくのかということも、これは私も申し上げたことではあるのですけれども、そういったことを今後の改善点に向けた非常に大きな課題になってくるだろうというふうに思います。

それから、ヒトとかモノとか、最近のコトなどという言い方もしますけれども、そういったことも含めた資源というものを生かしていく、そういう方々を生かし得る仕事、事業というものを具体的につくっていくというのですかね、そういう部分。

最近、空き家とか休耕地を使った新たなビジネスなどということもいろいろな形で出てきているところはありますけれども、そういう既存の資源というものを生かし得るビジネスというものがあり得るのかどうか、そういった掘り下げもあわせて必要なのではないかと。

さらにはそういう週末農業とか、関係人口という形で、施策は若い世代定住プロジェクトというふうになっていますけれども、定住という視点で働くということを考えるのか、それとも関係人口とか交流人口など最近よく言われますけれども、そういう視点から働くということを考えていくのかというのは、実はかなり違うのですよね。

これも今後の人口戦略として、なかなか人口をふやしていくということが難しい中で、場合によっては思い切って交流人口を主軸に考えていくのだということも、これからの人口政策としてはかなり問われてくるであろう。その中で、この働くということはどういうふうに考えていくべきかというようなご提案も先ほどいただいておりますので、そのことも今後また、この後、深掘りできればと思います。

あと、新しい事業体をつくっていくということについても、今いろいろ注目されていて、いろいろな形態でもって、そういう動きもかなり出てきている。

そういう従来とはちょっと違った事業体を組み立てながら、そういった仕事をつくる、あるいは同時に観光だとか産業の活性化につなげていく、そういうふうな視点もあり得るところですので、一応論点として掲げておければというふうに思います。

それ以外にもいろいろありましたけれども、主にそういった視点で働く場を生み出していくということについて、さらにちょっと深掘りしていくことができそうかなというふうにも思いますので、今私が簡単に取り上げたこと以外にもいろいろ出していただいても全

然構いませんけれども、一応、この後のワークショップにそういった意見をつないで、より具体的に実現に向けたアイデアというものを出し合っただけであればというふうに思います。

とりあえず、一旦この評価としては、以上ということにさせていただければと思いますけれども、ぜひこの視点は盛り込んでおいてもらいたいということがありましたらご発言いただきたいと思いますが。

【委員】

以前からお話伺っていると、白井市の産業をどうしていこうかという、あるいはまた交流人口という視点もということなのですからけれども、そもそも議論するベースとしては、白井の人口構成が非常にこれから65歳以上の方が非常にふえていく、それはニュータウンの性格上やむを得ないわけで、高齢化していく、だから、若い人たちをふやさなくちゃいけないのだということがベースにあって、その若い人たちを定住させるんだという視点で、例えば工業団地をどう活性化するかという議論はあるのですが、それは若い人たちが定住するという、そういう視点で考えていかないと、非常に議論が拡散していくんじゃないのかなと。

例えば、シルバー人材センターの人を活用して、工業団地の人をどうしようかというようなところまでは広げないで、若い人が定住するというところに絞った産業政策ということで行くのかどうか、そこのところを決めておかないといけないのではないかなと。

【会長】

絞り込んだほうがいいのかどうかというのは、いろいろ意見があるところかと思いますがけれども、ただ、若い方々に焦点を合わせながら、若い方々がこの白井で働いていくという裾野というのはどういうふうにかいていくのか。

それにあわせて、もっと若い方々が白井に通うなり、あるいはプロジェクトとしてかかわるなり、いろいろな形でその裾野を広げていくということもあり得るでしょうから、その辺はどういう組み合わせ、どういう比重、どういうふうな展開の中の組み合わせとして考えていけるかということは問われるところで、市としても今後本格的に考えていく必要があるのではないかとすることはとりあえず確認をさせていただきたいと思います。

例えば、若い方々と工業団地ということ言えば、これ工業団地は白井の中でどういうふうに位置づけていくのかということは非常に大事な視点で、ほかの自治体でも工業団地はそれぞれ抱えているのですよね。

だけれども、それをつくられた時期とかあるいは立地とか、いろいろな意味によって工業団地の持っている特徴とか、可能性というのはかなり違うというふうに言われていますよね。

その中で白井も工業団地はどんな可能性があるのか、それが若い人たちにとってどんな魅力あるものに映っているのか、映っていくのかといったあたりもちょっと戦略的により

踏み込む必要があるのかなというふうに思いますので、そのことも含めて、ちょっと論点として確認をしていきます。

あとは、よろしいでしょうか。

【委員】

皆さん、いろいろなアイデアがお持ちなのだなということがすごく勉強になったという感想と、あと聞きながら、恐らく庁内にも、若い人たちですごくアイデアをお持ちの方がいらっしゃると思いつつも、多分これはどのような組織でも、いかに外に発信するために中のキーマンを説得するかというプロセスは、すごく共通したことなのだろうなと思うのですね。

私も健康づくりとかそういう施策を見ていると、担当者レベルではすごくいろいろなことを考えているのだけれども、それを実現できないのは、自分が課長さんを説得する力量に欠けているとか、そういうところがあるのだろうなというところを垣間見てきたので、そういう意味で、民間でもこの庁内でも共通して、いかにキーマンを説得して事業化していくことができるかという視点も必要なのだろうなと思うのですね。

ですから、例えばこの施策ですと、主担当課が一つあって、関係課が二つあってということなのですが、実はもっといろいろな課同士で連携する必要があることなのだろうな、といったところの仕組みについても、どこかで言及できるといいかなと思っています。

【会長】

その仕組みはどれぐらいの。

【委員】

例えば庁内での連携の仕方、多分、部課長さんたちは、部課長さん会議で交流する機会はあると思うのですけれども、若い職員の方たちなんかは、なかなか飲み会でもやらないと、横のつながりはないのだろうなというところが想像できるのですね。ですから、そういうところの連携の仕方なんかも少しざっくばらんに話し合いたいなと思っています。

【会長】

その辺、ワークショップで、具体的な課題という部分でいろいろ話題の掘り下げができればと思いますので、仕組み、役所内のそういった議論できるような環境としてどんなことをさらに充実できるのか、あるいは市民と、先ほど市民参加型というお話もありましたけれども、市民と行政とのやりとり、そのプロセスのあり方ということもいろいろあり得るところで、ここもまだまだ弱いのか、そこをどうするかといったあたりも含めて、またご意見いただければと思います。

ということで、この一つ目の戦略1-2、働く場を生み出すまちづくりについての評価は以上ということにさせていただいて、今、ご指摘いただいたことについては、改めてまとめてこの審議会の意見ということで付させていただくということにしたいと思います。

今、改善点ということでいろいろ出していただいて、それについては今、恐らく事務局

のほうで付箋に書いてくれていると思いますので、それをまずこの後のワークショップの取っかかりにして、そこから議論を膨らませていくということにしたいと思います。

まず評価ということでは一旦ここで区切りたいと思いますので、一時閉会させていただきます。

一時閉会

【会長】

それでは、再開したいと思います。

戦略2-2、みどりが価値を生み出すまちづくりということで、基本的には午前中と同じような形で進めていきたいと思います。

まず、各委員のほうからそれぞれ作成してきていただいた外部評価シートについて、まずご報告いただこうと思います。

午前中と同じように、基本的な評価とそれについての理由を一巡目をお願いをできればと思います。

今度は逆の順番で、西飯さんのほうからいいですか。

【委員】

2-2のほうなのですが、私は、総合評価はBとCの間、Bなのかなというふうな評価をさせていただきました。

一番大きい理由は、市民の豊かな緑の興味・関心というのが広がりを持って醸成されていないというのが実感であるからです。

私自身も環境保護をされている団体に賛助会員で入っているのですが、やはりその保全にかかわっていらっしゃる方というのは割とご高齢の方で、私の子どもも環境教育をたまに受けてくるのですが、そのことが、じゃあ自分たちで積極的に緑を守っていこう、活用していこうというようなところまではいってないなど。

緑は豊かだけれども、その価値というのを市民が実感できているかなという疑問のところでBということにさせていただきました。以上です。

【会長】

続いて委員、お願いします。

【委員】

私の外部評価としては、偶然というか、西飯さんと同じように、BとCの間です。

白井市民の自然環境に対する関心を高める事業の一つとしては、内容を見ると、大学とか、あと市民団体と協働で実施しているという点もいいと思いますし、期待はできると思います。

ただ、現在のやり方のままでは、本当に一部の市民しか認知されていないという感が強

くて、施策の目標到達はちょっと難しいかなと思ってしまいます。

神々廻の森があること自体わからない方もいるし、そのほか二つの森があると言っても、白井市には、それもわからないという方もいる中で、この緑にどういうふうに見出しをいこうかというので、市が保全に取り組むという姿勢はとてもわかるのですが、それを市民がまだ知らなさ過ぎるというか、知って、じゃあ今度その後に、委員が言ったように、知ったらその後にどういうふうにかかわっていくのだろうという方向がちょっと見えづらくて、白井市のどこを見ても緑に会える、梨畑があり、緑道がありというだけで満足している市民をどうやってもっと保全にかかわらせていくか、さらにその後にどうするのかというのはちょっと考えづらくて、かといって市のやっていることは、私は期待できるかなと思っていますので、BとCの間ということで評価させていただきました。

【会長】

ありがとうございました。

じゃあ、続いて委員のほうから。

【委員】

評価のほうは、前回ちょっと私出られなかったので控えさせていただけますけれども、白井市にはまだまだ手つかずの緑があるということだけは、しっかりと自分の中に入れておいて行きたいな、そういうふうに思っています。よろしくお願いします。

【会長】

委員、お願いします。

【委員】

みどり活用プロジェクトの中で、みどりが価値を生み出すまちづくりということについて、グラウンドワークという言葉自体が何となくピンときていなくて、あるいはまた現状でもなかなかこういう考えで緑を保全していくというのは、まだピンと来ていません。

それから、環境学習も特に白井として進んでいるのかなということよくわからないので、みんなCでつけてきました。

取組として市の目標としてこういうものを掲げなくちゃいけないほど都市化が進んできたのかなというところで、なかなか難しい取り組みかなとは思っております。

【会長】

ありがとうございました。

委員のほうからお願いします。

【委員】

先ほどは水槽を見させていただきましてありがとうございました。エビのえさを食べる姿がかわいくて、写真にとってしまいました。ありがとうございました。

それで、私は今回、総合評価はBとさせていただきました。ただし条件つきです。

まずBにした理由なのですけれども、前回のこの会議では、確かハードの部分を都市計

画課がやって、ソフトの部分を環境課でやるという認識だったわけですがけれども、やはり人を教育するというのは、何事にもかえられない最大の投資だと思っています。

そういった教育をいろいろな角度から丁寧に取り組みをされているという意味で、すごくいいなという意味でBをつけさせていただきました。

一方で、条件つきとさせていただいたのは、そういう意味で現時点では学びが中心になってくるわけですがけれども、人に対する教育の成果が見られるのはすごく時間がかかることだと思うのですね。

ですから、成果が出るという方向に向かって、現時点ではどのぐらいまでできたのかなというプロセスをしっかりと評価していくという作業がとても必要なと思います。

先ほどどなたかがおっしゃった学びについての広がりがあるのかということもありますし、あとは、市役所がやる事業は特定の市民の方に限定されがちだということで、やはりそういった学びが、そこにいない人たちにどういうふうに普及していくのかなということもちゃんと見ていかないといけないのかなと思います。

つまり、プロセス評価をしっかりとやっていけばという意味で、展望的感想ということでBをつけさせていただきました。

【会長】

ありがとうございました。

最後、私のほうから。

基本的な評価としては、やや厳しめなのですがけれども、やはりC評価ということに個人的にはさせていただきました。

環境保全への取り組み、あるいは緑の価値というものを共有していくというコンセプトはいいと思いますけれども、多くの委員がご指摘されているように、一つは、学びの環境というものをどういうふうに広げていけるかどうかということが、今後に向けて大きな課題になってくると思います。

それぞれの年代での学びの場というのは、いろいろな形で講座をつくられたり、いろいろな体験を重ねるといったようなことはできていると思いますけれども、その人が大人になっていくにつれて、環境意識というものをどう自分の中で定着させられるか、あるいは育んでいくことができるのか、そこを広げられるかどうかということが大事になってくるかなと。

私も小学校のころは神崎川に魚とか、まさにエビとかをとりに行った記憶は、今でも非常に鮮明によみがえってきますけれども、ああいう原体験というのは非常に大事なことで、その人なりにそういう原体験があることによって、その人なりの環境意識というものが膨らんでくる。

だから、子どものときは子どものときなりの、それがどんどん成長するにつれて、例えば中学校では、高校では、そういうことがあって、ただし、例えば白井の外に出たとして

も、でもやっぱり白井の自然というものに戻ってこられる、あるいはそういうものへの関心だとか価値意識だとか、あるいは自分なりに携われること、この裾野を開いていけるかどうかというのが学びということに非常に大事な長期的な方向性だと思いますので、そういう方向性をにらんだ上での今の取り組みというふうな位置づけができる。

だから、今やられていること自体が低評価だとかということではなくて、今言ったような方向性の中で、今取り組まれていることを位置づけていただきたいという意味で、少し厳しめの評価を出していくというところですよ。

それから、もう一つは、グラウンドワークという取り組みは、所有者、行政、企業、市民、それぞれの立場がかかわりを持って一つの緑の価値というものをつくり出していき、あるいはそれを維持していくという取り組みだと思いますけれども、これの方向性というものがどういうもので、各方面を巻き込むプロセスというものが今どんな形で計画され、段階的にその歩を進めているのかということがまだちょっと見えてこないところもありますので、この辺ももう少し詰めて実践していくということが問われているのかなというふうには思いましたので、ちょっとそういった視点にさせていただきました。

今、一通り各委員のほうから総合評価とその理由、ポイントについてお聞きをしました。審議会としての最終的な評価はまた後ほどさせていただくとして、今、ご指摘いただいたようなことを踏まえた上で、みどりが価値を生み出すまちづくりということについて、今の取り組みをもっとこうしていったほうがいいんじゃないかとか、あるいはもっとこういう視点を加えていくべきじゃないか等々ありましたら、午前中と同じように、自由にご提案をいただければと思います。

特に順番は決めませんので、なるべく全員の方からご発言をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

ちょっと質問みたいになってしまうところもあるのですが、神々廻市民の森で今このグラウンドワーク活動をやっているということで、今は一部の方の参加者しか関わっていないことだと思うのですが、ゆくゆくは市としては神々廻市民の森になるべく多くの市民が行って、グラウンドワークをするという意味じゃなくて、そこに行ってもらうことを考えているというふうに考えていいのか、あるいはあくまでも保全を勉強するためのものとして、神々廻市民の森のグラウンドワークをやっているというふうに考えているのか、その立ち位置がちょっとわからなくて、どちらを今考えていらっしゃるのか教えていただきたいと思っているのですけれども。

【環境課長】

ただいまのグラウンドワークの関係でございまして、一つは、ここを選択した理由というのが、良好な状態であるのに使われていない、知られていない、これは先ほどご指摘いただいておりますけれども、そこを何とかしたいということで、まずは神々廻市民

の森を使って、実証試験的な形でこのグラウンドワークを展開して、多くの市民の方に存在を知ってもらって利用していただけるような環境をつくりたいというのがまず1点ございます。

それから、2点目の保全というのは、これは当然保全もしながらというのが前提条件になりますので、そういうことで進めていきたいと思っております。

【委員】

そうすると、ゆくゆくはそこに興味を持たれた方が、神々廻の森に気軽に行けるような状態をつくるという形に持っていければいいなというふうに思っているのでしょうかね。

【環境課長】

実は、今でも気軽に来ていただいていい状態になっております。ただ、知られていないということが一つネックになっておりまして、知らないがゆえに行ってもいけないということもありまして、まずは知っていただくというのを最初にやらなきゃいけないことだというふうに思っております。

【委員】

わかりました。

そうすると、そこは車がないとまず行けないところなので、バスを利用してと言われても、バスもそんなに本数がない。自転車をこいで行ってもいいのですけれども、遠くの人とかは、なかなか富士のほうからとか行きづらかったりする、そういうことで例えば駐車場を整備するとかというのを施策では言えないけれども、考えていってもいいのかなと思ってしまうのですけれども、その辺は何か考えていらっしゃるのでしょうか。

【環境課長】

駐車場というのは、全くそのとおりだと思います。

ただ、駐車場をつくるということは、緑を潰すことになりますので、まずはあそこに数台、五、六台はとめられると思いますけれども、ありますので、あとは運動公園の駐車場とか、既に代替可能なものがございます。ですから、あそこに来るアプローチとして誘導できるような、何かしら看板だとか、あるいは沿道も少しきれいにして、何となく歩いていて、こっち楽しそうだというような、そんなイメージを出せたらいいなというふうに思っています。

ただ、私有地とかの問題がありますので、とりあえず今、入り口のアプローチのところ、花壇とか、そういうことをやって、今年度、クラウドファンディングの募集もここで今予定してやろうとしていますので、そういったことも踏まえて、先々検討していきたいというふうに思っております。

【委員】

わかりました。

このガバメントクラウドファンディングはいいなと思っているので、試験的にぜひやっ

てみてもいいなと思ってはいました。

【委員】

グラウンドワークという言葉と、今出たクラウドファンディングについて伺いたいのですが、グラウンドワークとわざわざつける以上、これは何か事業者と一緒にやっていくよという意味合いで使っていくのですよね。

それと、クラウドファンディングは、どんな形で進めていかれる予定なのですか。

【環境課長】

グラウンドワークは、今、いろいろな皆さんにかかわりを持っていただいて、緑とかそういうところをきれいにしていこうというような取り組みです。日本では三島が一番先にやって、右手にスコップ、左手に缶ビールとか、そんなような感じで、みんなで取り組んで自然を再生していくといったような取り組みをやっていきます。

白井市のグラウンドワークも、自然等を再生しながら良好な環境を維持していこうということでやっております。これがグラウンドワークです。

そこへのかかわりというのが、市民大学の卒業生の皆さん、この方たちがいろいろ自分たちの活動をどうしようかというような、模索をしているようなところもありまして、たまたまうちの担当者が市民大学を担当していたものですから、お声かけをして、このようなものがあるのですけれども、いかがですかというようなことで巻き込んだという形になります。

現在のところはそこだけなのですけれども、そのほかに、白井高校の生徒さんに看板の作成をお願いしたりとか、千葉大学の大学院生の皆さんにかかわりを持っていただいています。

これは、クラウドファンディング等で、またちょっとそういう賛同者があらわれればいいなというふうに思っておりますけれども、そういうことです。

クラウドファンディングは、今回は、なし坊グッズ、レインコートか何かをつくろうというのと、あとは神々廻のグラウンドワークと同時に募集をかけて、相乗効果を狙っていこうというようなことで、今内部で検討しておりまして、クラウドファンディングをやる業者がいますので、そこをいろいろ調整をしているといった段階です。

【委員】

事業主体は市がやって、クラウドファンディングを募集して、やって進めていこうかという事業なのですね。

【事務局】

そうです。

【会長】

その土地は、市が持っている場合もあれば、民有地を使う場合もあって、そこはいろいろなケースがありますけれども、そういった土地を提供する主体、それから労力を提供する

る主体、具体的には市民だったりとか、あとは、お金を寄附とか、いろいろな形で提供する人たち、行政といったような形で、別にきっちり形が決まっているわけではありませんけれども、いろいろなものを持ち寄りながら、緑の環境というものをつくっていかうというのが一つあります。

そこから、例えば三島のような取り組みなどというのは、そこからまたいろいろな波及効果が出てきている。例えば、里山保全と一緒にやるといったら、里山保全で例えば竹を伐採したりとかして、その伐採した竹をまた今度別なところへ利活用していく、例えば商店街で、竹にそうろくを灯して、バツと並べてみるだとかいうふうなことを初めとして、いろいろな各方面に資源というものは二次利用していくというふうな、そういうことから始まって、そういう取り組みに例えば福祉関係、社協も一枚かむとか、商店街も一枚かんでいるとかというふうにして、いろいろな広がりをつくりながら、環境保全活動というものの動きというものを面的に進めていて、白井も白井なりのまた形をつくってあげばいいことですが、一応そんな広がりがあり得るものだと思います。

【委員】

何かこだわるようで、三島というのは、去年、柿田川を見にいったんですけれども、あれなんか、川の浄化ということで長年取り組んできて、製紙工場か何かの排水をとめて、きれいにしたのをやっておられたけれども、そういうような流れの取り組みと考えればいいのか、グラウンドワークというのは。

【事務局】

取り組み自体は、それと似たようなものということでご理解いただけたと思います。ただ、あそこは、そういう中で水質が悪いとかそういう意味ではないので、ただ今回種類がちょっと違うのは、とにかくあそこを知っていただく。池もあるし森もあるし、近くにはプールもあれば運動公園もあるということで、いろいろなまちの魅力が集まった集約地になっていますので、そこをうまく連携して活用できないかということが、一つの大きなポイントになっていると思います。

【会長】

ポイントは、緑が価値を生み出していくという、明らかに価値であるのに違いないけれども、この価値というものをどういうふうに膨らませて、知ってもらって共有していくのかということの難しさですね。

例えば三島などは、非常に汚染されてしまったとか、非常に環境が破壊されているとまでは言わないにしても、いろいろな問題が出てきている。それをみんなの力でもって浄化していく、みんなでこれを守っていかうという、これがいろいろな各方面の動きを引き出していったというふうな経緯があると思うのですが、白井の場合、そういう緑という価値は当たり前のことであると。当たり前のことである価値というものを人々が改めて意識したりとか、これを守らなきゃいけないよねと思える、そのきっかけというのは何な

のかなということをもっと膨らませていかないと、あまりにも当たり前のものとしてあるものに付加価値を加えるとか、一体どういうことなのかという、ここは難しいところですよ。

【委員】

先ほどの意見と繰り返になってしまうのですけれども、やっぱり今、保全をやられている方々は、私も存じ上げていますけれども、相当ご高齢の方々が多くて、全く手が回っていないとか、本当によくやってくださっているなというだけの意見しかないですけれども、じゃあ、そこになぜ若い人とか、ちょっと時間があいた人が加わっていかないのかということ考えたときに、活動に楽しさというものが見出しにくい、保全をしているけれども、活用というところまでいっていないのと、その緑というものと自分の暮らしというのがつなげられていないというのが、すごく自分の問題としても思うので、もっと一歩踏み込んだ取り組みができれば。

環境教育だと多分、半日とかそういう感じで今やられていると思うんですけれども、例えば神々廻の森に一泊キャンプしてみるとか、そうするとまた職員の方とかの仕事があるのでよくないのかもしれないのですけれども、子どもがここはすごいじゃんというような実感を得られるような、まさにグラウンドとして今実感されていないのが問題なのですよね。だから、そういうような子どもにはそういう仕掛けができるのかなというのと、大人に関しては、何かもっと、家庭と緑というのはつながっているのだよというメッセージが大事だと思うので、生ごみの利活用ということと緑を考えるということがとてもつながっているのですよということをもっと言っていければいいのかなと思っているので、何かコンポストを進める、今助成金とかありますけれども、もうちょっとそういう、講座がいいのかわからないですけれども、家庭から大人がちょっと意識を醸成できるということが大事というのも一つあるのと、もう一つは、今の環境団体の方々の世代交代をどうするのかというのを、これ本当に日本全国の環境保護団体が抱えている問題なので、活路はないのですけれども、保全をすることがわくわくになるような仕掛けというのをやっているところがあったら、そこからすごく、事例から学ぶことはできるのかなと思うのですけれども。

【環境課長】

神々廻の森でキャンプ、これはいいかもしれません。

ただ、欠点が、水がない、トイレがないというのが大きな欠点でございます。この辺ができれば、そういったこともいいのかなと。

実際、原っぱになっておりますので、わくわくするような仕掛けという意味では、今、あそこに実はカブトムシのベッドというのをつくってございまして、要するにあそこへ行くとカブトムシがとれるぞ、いるぞといったようなものをアピールできれば、子どもたちもちょっと行って見てみようかなといったようなことがあるのかなということで、これ昨年ちょっと、とある材木屋さんのご好意で、熟化した木材の中に、実はカブトムシの幼虫が

たくさんいて、四角いコンパネで枠をつくりまして、その中にいっぱい入れてあります。隣の梨屋さんも、ちょっとお話をしましたら、傷んだ梨とかそこにぼいぼい投げ入れてくれるような形で、今ご協力をいただいております。

実際にいるかどうかというのは、なかなか検証できていませんけれども、そういうことでやっております。

キャンプの件は、都市計画課との話もありますので、また追々ご提案を検討させていただければと思います。

それから、大人に関してですけれども、家庭と緑がつながっていると、これなかなか実感というのが、先ほど会長からお話ありましたが、実体験として、小さいうちにそういうことを感じたり、あるいは生で見たり触れたり、これが大人になって実は非常に重要なのだということは私も感じておりまして、私も白井で生まれ育っていますので、緑は当時からするとすごく減っています。私が見ると、緑減ったなというのが実感であります。

ただ減ってはいても、やっぱり自分が魚やカニをとりに行った川や沢だとか、そういう実体験がありますので、そうだなというのは、確かにそのとおりですね。

ですので、段階を踏んで、例えば幼稚園とか保育園の年齢層から小学校、中学校、高校生というような形で、だんだん広がりを持たせられるような形のものをやれたらいいなと思っていて、今年、実は市内の幼稚園で非常に環境教育を熱心に取り組んでいる幼稚園がございまして、今、市内でビオトープ的なものを協力しながらできないかということで、今検討しております。

その年代層の子どもたちをそこに引き込んで、興味を持たせて、さらに小学校に上がった段階で、今、第三小学校と桜台小学校で環境教育ということで展開しておりますけれども、その裾野を広げて、白井のそういった緑だとかに興味、関心を持ってもらえるような実体験を積んでもらえればなというふうに思っております。それをすることによって、先々、世代交代というのは、そういう長い目で見ないとちょっと難しいですが、長い目で見て行って、人材育成は十年の計画でやっていかないといけないのかなというふうに思っています。

【委員】

桜台に十余一公園がありますけれども、そこに人工ですが、川が流れています。

そこで、親子が、春ぐらいから毎週、毎日、ザリガニ釣りにやってくるんですね。車がとめられるので、車をとめて来る方もいれば、近所で来る方もいれば、印西市のほうから歩いて、国道沿いに歩いて来る方もおられて、親子でお父さんが教えてやっているのですよ。

さっき、カブトムシの話聞いたので、多分、親子でそういう若いお父さんとか、自分のほうも興味があって、子どもを連れていくというのが結構楽しいと思うのですね。

だから、そのカブトムシというところも結構いいのかなと思いました。

【委員】

みどりが価値を生み出すというのはすごく大事なことですけれども、そういったザリガニだとかカブトムシだとか、白井のどこに行けばいっぱいとれるよとか見られるよとかという形ができたとして、一番心配なのは、その地域の環境を壊してしまうということが一番心配で、その辺のやり方を上手に考えてからコマーシャルするなり、お伝えするなりをやっていったほうが、ちゃんとした生かし方ができるのかなというふうに思いますね。

ある地域を指定地域か何かに上手につくって、これ以上は徒歩にしてくださいとか、車では入らないようにしてくださいとか、ごみは捨てないようにしてくださいとか、きちっとモラルを守っていただけるような形ができてからのほうが、すごくいいのかなというふうには感じています。

【委員】

そういう点では、先ほどの駐車場の整備というのも、逆に言うと、誰でもとめられちゃうというよりは、ある程度きちっと整備されていて、ここだったら神々廻の森に行くための駐車場としてとめられるとか、管理をきちっとしないと、どんな方がどういうふうに入ってくるかわからなくなってしまう状態になってしまうと、よくない面があって、難しいのかな。

【委員】

本当に難しく、結局は入れないようにしてしまったりとかいうような状況になってしまって、せっかくフェンスをつくっても、そのフェンスを破って入ってきたりとか、そこから辺をきちっと地域の皆さんと共存しながら上手に持っていかないと、せっかくいいものが壊れてしまう。

【委員】

ちょっと市民の方にお尋ねしたいのですが、白井市は伝説みたいなものないですか。自然が多いところは、ここで悪いことをすると何か出るとか、そういうのが多いなというイメージがあるのですが、ないですか。

【委員】

環境課長、いかがですか。

【環境課長】

伝説というのは……。

【委員】

印西に竜伝説があって、竜の頭が出たところとお腹が落ちたところで、それぞれお寺があつたりするのですけれども。

【委員】

そういう伝説をもっと過大評価して、認知とか普及していくという戦略も案外有効かもしれませぬ。

よく環境教育で聞くのが、佐賀の河童地藏伝説で、川の水が汚くて、でもカッパがいるからみんなきれいにしようねというカッパの像を川沿いに建てるという提案を中学生がしたのですね。それを市が採用して。

そしたら、見る見るうちに川の水がきれいになってという、都市伝説みたいな感じですけども、そういうのを。

若い子たちに教育をするのだったら、物語をつくらせてみるとか、それを何かいいストーリーがあれば、それをみんなに知らせていくようなコンクールみたいなものがあったらいいですし、せっかくなし坊も定着してきていることなので、そういうものも環境の取り組みの一環として、銅像を建てるには、ハード面の課の課長に相談だと思えるのですが、そういうのもいいのかなと思いました。

【委員】

教育に10年かかると、おっしゃるとおりなのですが、今ある環境団体の方々が、あと10年元気に保全ができるお年かと考えたら、70ぐらいの方が多いから、80歳とかになったときに、ぎりぎりなのかなと思うのですね。

そうしたときに、65歳で定年になるかわからないですけども、当面65歳として、65歳から75歳ぐらいの方々に、まだ体が元気な方が加わっていただけるような仕掛けというのを考えられていますか。

【環境課長】

これは、新たに整備する市民の森の話になりますけれども、あちらは、前回、勉強会でもご説明しましたように、現在、私有地で15ヘクタールほどあります。そのほかに、水の保全とかそういう形で必要だろうという土地を地元代表者の皆様のご提案で選定をして、それをもとに、各地権者さんのほうにご協力いただけるかどうかという、今、個別交渉を行っています。

これが終わった後に、具体的にどういう整備にしたり、あるいは活用していくということと一緒に考えていくという場を設けますので、その中でいろいろご参加いただいている諸団体、学識者とか、あるいは一般の市民の方とか興味のある方、こういう方にも入っていただくことを考えています。

その中で、新たな枠組みで、一緒に、こういう活用できたらいいよねとかいうところを見出しながら、新たなメンバーを集めるような仕掛けができたらいいなというふうに考えています。

【委員】

相当広い地域ですよ。

【事務局】

ただ、あそこ全てを活用するかというとそうではなくて、これは団体さんもおっしゃっていましたが、役所もそう考えているんですけども、使える部分と完全に保全してクロ

ーズする部分、これは絶対に分けないと、先ほど委員からお話ありましたように、全部荒らされてしまうのではないかという心配もありますので、そういうところを踏まえながらやっていくと。

【会長】

ほかにいかがでしょうか。

【委員】

みどりが価値を生み出す、こちらのほうで、市民の認知度が低いので、それをもうちょっと市民に知らせるといことは、先ほどのほかに、例えば、市民の森の下草刈りとかはシルバー人材センターの方がやってくださっているとおっしゃっていたので、そのシルバー人材センターの方がやってくださっていますよというようなことも、例えば、広報とかホームページに載せて保全していますとか、それはそこで皆さんに来てほしいからですといった知らせ方をするとか、あるいは実際にグラウンドワーク活動に参加した子どもたちの意見とかをホームページに載せてみるとか、また、知らない人はアクセスしないので、市のほうとしても子どもたちの意見にはこんなのがありますというのを、例えばふるさと祭りのような多くの市民の方が集まる場でアピールするとか、そういうのができるのではないかなと思うのですね。

ホームページにはいろいろ書いてあるのですけれども、そこに行く前の段階のところでもうちょっと保全活動はこんなことやっているんだねというのがわかるといいなと思いました。

【委員】

環境課の皆さん、結構いろいろなことやっているのですけれども、これ以上のことをやって、市民の皆さんにお知らせしてもいいのかな、どうなのかなというところもあったり、あと市民の皆さんが、環境にどのぐらい目を向けているのかというところが一番大事なところで、先ほども教育、子どもから教育をきちっとして行って、その親御さんにもきちっと伝わるような状況をまずつくっていかなければならないというところもあるかと思うのですね。

私、先程手つかずのところもあるというところの話もしたのですけれども、そういったところも、きちっと行政と連携を、地元の皆さんと連携を組んで、草取りをやるだとか、実際、草取りをやられている方も、個人的にやられている方もおりますけれども、間に合わないのですね。歩道だとか結構草ぼうぼうなところがあったりして、そういったところも実際手をつけていいものなのかどうなのか。行政のほうで業者さんをお願いするとお金がかかっちゃうわけですね。

それが地元の皆さんでうまくチームを組んでいけば、そこまでやっていいのだったら、私たちがやろうとかいうふうになればお金がかからないわけですよ。そういったところもきちっと連携を組んでいけるようにしていけるともっといいのかな。

だから、お金をかけられないところもあるので、そこを住民の皆さんとうまく連携してやっていると。

結構、朝早く散歩される方が白井市はおられて、そういったところもきちんと大事にしていきながら、中にはごみ拾いをしながら、ビニールの袋を持ちながら散歩される方もおられるので、そういった情報をお聞きしながら、連携を組んでいけるとももっとも価値が出て、住民の皆さんの意識ももっと高くなっていくんじゃないのかなと。

ただ、広報でこういうところがありますとかと出しているけど、実際動く人たちがふえていかないと、意識を高めていかないと、緑が価値を生み出すというところは難しいのかなというふうに思っています。

【委員】

よし悪しなのですけれども、スポーツごみ拾い協会というのがあって、ごみ拾いをスポーツ化している団体があるのですよ。相当流行っていて、そういう方々と組んで、森を1回ものすごくきれいにするとかというのは、ありなのかなと思うのですけれども、またお金がかかると思うので。何かちょっとイベント化するというのはできるのかなというのが一つ。

あとは、富士地区、ごみがたくさんあるとおっしゃっていたのですけれども、私の地区は、ごみ拾いに行っても、あまりごみがなくて、5分くらいで終わっちゃうのですね。日曜8時にせっかく行っても、5分くらいで終わってジュース飲んで終わりなので、そういうごみの拾いがなかったという地区もあるから、その人たちに遠征してきてもらったらいいのかなと。

ちょっと自治会と連携すれば、やりようによっては、安全を確保してマナーを守れば、森とかのごみ拾いは楽しいのです、とても。楽しいし、その中で森に初めて入って、こんな軽井沢みたいなのが464号線の横にあるのですねみたいなことがみんなにわかれば、もっと、じゃあ原っぱの会に入ってみようとか、試してみようかなとか思ってもらえるのかなと。

【環境課】

先ほどちょっとご質問いただいたので。

ホームページ等でPRしてはということで、それは検討したいと思います。

あと、アンケートとか、グラウンドワーク関係につきましては、千葉大の大学院の演習プログラムに関してやっておりますので、アンケートとかっております。意見の集約はできております。

それと、スポーツごみ拾い協会ですか、これはなかなかいい、おもしろいことやるのだと思いますので、森をきれいにするというので、実は原っぱの会さんも年に2回、3回、ごみ拾いをやっていただいていますので、私なども行っていますけれども、そこにほかのところから人を招いて一緒にやるということはいいいことだと、あとはその仕掛けをどうや

ってやるかというのは、検討してみたいなというふうに思います。

【会長】

ほかにはいかがでしょうか。

【委員】

なかなか難しいテーマで、的確な意見が言えないのですけれども、この今議論しているのは、三つ、総合計画の中の取り組みがあって、その2番目が緑なのですけれども、日本の国土は70%が森林と言われているわけで、ここ白井市には森林面積がどのぐらいあるのか知らないのですけれども、その森林を保持していこうかという取り組みではないだろうなと思うのですね。

たまたま三つが市として指定した森だよと。今後もそういう森を残していこうとありますよね、次のつながるといふところでも取り上げられるわけだけれども、今、この2-2でやっているのは、三つあるものをどうしようかという議論で終始しているわけだけれども、それを市民が憩えるような色合いをもう少しやっっていこうか、そのことによって環境の大事さを子どもたちに伝えていこうか、ということなのだろうと思うのだよね。

そうだとすると、もっと子どもたちや一般市民にも知ってもらい、また知ってもらうための工夫が必要だし、その辺がどうも見えにくいというか、緑には価値があるのだというものとして推進していくのは難しいなということであるのですが、その取り組みがどうも三大目標の一つで緑ということを挙げていて、その中の価値を見出すまちづくりという位置づけが、多くの市民に訴えかける力が大きくないんじゃないかなと感じる。

【会長】

難しいところがありますけれども、そろそろ取りまとめにかかりたいと思います。

私のほうからもちょっとだけ申し上げたいと思いますのは、一つは、今、委員もおっしゃったように、重点施策の柱の一つのわけですよ。だから、相当重い位置づけにはなっているはずですが、これがこの白井の中でどんな意味を持っているのかということをもっと大きな位置づけとして、もっと戦略的になっていくということが必要かなと思います。

先ほども申し上げましたように、自然環境、これを守っていくことが大事だというふうな取り組み目標とか全体の施策にはなっていますけれども、私はそれだけだとちょっと弱いんじゃないかと思っています。

先ほども言ったように、例えばその環境が失われてしまっているような状況下に対して、これを守らなきゃというふうな、一つの組み立て方であれば、これは非常に理解をされやすいし、普通の取り組みに対して参加していこうというふうなモチベーションとかを見出し得るわけですが、白井の場合には、既にある自然というものを守らなきゃといつても、市民の方々がどういう思いでそれを守ろうとするのかという部分がもっと掘り下げられないと、認識においても、あるいは保全活動に参加するという裾野においても、なか

なかちょっと開かれづらいかなというのが一つ論点としてあると思います。

私は、10歳のときに白井に越しましたけれども、生まれは私、栃木の今市という日光に合併されたところですけども、白井よりももっと自然がたくさんあるところでした。

なので、白井に越してきたときは、自然豊かだなという印象は実はあまりなくて、むしろそういう意味では当たり前のこと、ただ、白井と私の生まれた故郷との違いは何なのかなという、白井はニュータウンが当時、開発の真っただ中でしたから、都市部的要素と自然的要素というものが共存している、これが白井なのかなという印象が子どもながらに当時思ったことで、その思いというのは実は今も変わっていないです。

だから、白井における自然環境保全というのは、実はそういうニュータウン的要素との共存という視点の中で捉え得るものなのかなと。だとするならば、そういうところからもっと環境的価値ということを膨らませていくということがあってもいいのではないかというのが、私なりに前から思っているポイントの一つです。

なので、そういう都市と自然環境との共存といったようなことを例えば一つのコンセプトに立てるといったこともありでしょうし、そういうところを重点施策に置くならば、そういう視点を例えば学校教育の中にも浸透させる、あるいは事業を営まれている方々にも浸透させていく、あるいは日常生活の中でも浸透させる、要するに生活する環境、働く環境、その中で自然、緑という価値というものをどういう風に白井の方々に改めて意識していただけるか、こういう戦略というものを立てていかないと、大きな柱としての位置づけにはなかなかなっていないし、何よりも戦略が立てられない。

だから、もし今言ったようなコンセプトでいくとするならば、その視点からの各種講座を準備していただくとか、あるいは白井でもたくさん小中学校あるわけですから、当時、小学校とか中学校のときに、ほかの学校の児童とか生徒と交流するのがすごく楽しみでした。立春式は、今、学校ごとなのでしたっけ。昔は、例えば僕の年代は、白井中にみんなが集まって、ちょっと交流するなどということをやっていたのですけれども、そういう中で白井の価値を論じるということがあってもいいし、当時はそれと、働くということから、要するに元服のもともとの行事でしたから、僕は梨農家に体験に行きましたけれども、そういう仕事とそういう交流というのを絡めていましたけれども、例えば環境という点でそういう交流ということも学べるわけで、当時はなかった桜台だのような都市部的要素を持っているところと、例えば第二小のような自然豊かなところというものが、もっとお互いの子どもたちが交流する中で、白井の自然というのはこうだよねということをお互いに語り合ったり、体験し合ったりしていくというのは、例えば学校教育の中に織り交ぜられていくというと、ほかにはない一つの学びの場であり、体験の場というものがつくられていくのかなと。もっと子どもたちが市内をぐるぐる回るというイメージです。もっと地域に出て行って、その中に環境という価値を実感したりというものを考えていたり、そういうことができるのと全然変わってくるのじゃないかなというふうに思います。

そういう大きなコンセプトから、例えば学びということ言えばそういうこともできるかなというふうに思いますし、そういうところから、先ほど申し上げたように、原体験であったりとか、あるいはそれぞれの年代で感じ得る、学び得る環境意識というものを膨らませることができる、すごくいい取り組みになってくるのかなというふうに思いました。

それがまず一つと、それから以前から指摘はされていますけれども、環境といっても、緑を守るというところから、例えばごみの分別をどうするかというところ、あるいは清掃というところ、かなり幅広い。だから、もうちょっと交通整理していてもいいのかなというふうには思います。

例えば、ごみの分別とか清掃活動というのは、かなり多くの人たちがやられているが、そういうことと緑を守るということがなかなか連動していないというふうなところもあるわけですから、そういう意味では、広い意味での自然環境、環境を守るということがどんな切り口であるのか。気持ちはあるのだけれども、どういうふうに参加していけばいいのかということがわからない市民がかなり多いですとかいうふうなところがありましたから、例えば緑を守るとか景観を考えると、ごみのことを考えると、それぞれに入り口というものが見えてくれば、市民からすれば参加しやすくなるのですよ。

どの部分で自分は力を発揮できるのかなということが見えてくるというのが、参加ということにもつながっていくというふうにも思いますので、ちょっと環境活動といってもかなりいろいろなものがあるので、交通整理をしながら、どういう入り口があるのか、どんな方法があるのか、それに照らして、それぞれの関心に応じた入り口を見つけてもらったり、そのための情報を発信、共有していくという、そういう取り組みも必要になってくるのかなというふうに思います。

先ほど学びを段階的に充実させるということを申し上げました。

一例だけ申し上げれば、松戸には環境、みどりと花の課とかと、そういうような担当部署があって、かなり熱心にやっている。

目玉事業の一つは、里山保全ということとその担当部署が講座としてつくるのですね。その環境保全というのはどういうことなのか、そのスキルから考え方からということでのろいろ学ぶ。それを毎年講座として開いて、その講座を学んだ人たちが今度、そのまま有志という形ですけども、里山保全グループをつくるのです。それがおもしろくて、1期の会、2期の会、3期の会とあって、毎年その字を変えながら、それぞれの年、学んだ人たちがグループをつくって、俺たちは市内のどこの里山を守ろうよとかというふうにして実践されているんですよ。

白井も市民大学はあるわけですけども、学びの場と実践の場というのは、どれぐらい活用されているか、一般論的に言うとまだまだ断絶があります。つまり、市民大学というのは教育委員会の担当、一方で環境保全というのは首長部門にあると。

そうすると、やっぱりそこの連携というのが、端から見るとできるじゃないかと思えるのだけれども、役所内部から見ると、なかなかそこの難しさというものがあるということは、どこに行っても聞くんですよね。だから、そういう壁というものを乗り越えながら、学びから実践へ、今の生涯教育というのは明らかに実践仕様になっていますから、そういう実践への活用ということをもっと積極的にやっていくということも非常に大事になってくるかなということを取りあえず私のほうから申し上げておきたいと思います。

ということで、いろいろご意見を頂戴いたしましたけれども、最後ちょっと簡単に取りまとめた上で評価の会議を終わらせたいと思います。

まず、評価については、B評価が3名、C評価が2人ということで、あとは皆さん評価を伺いながらですけれども、Cに近いB評価という方が。

【委員】

ここが、BとCの間に。

環境課の方がものすごく頑張っているのは、私もイベントに参加したり、子どもが参加したりしているのでわかるのですが、白井の価値という意味で、一番が緑だと思うから、もっと戦略的にやらないと、印西に消されてしまうんじゃないかと思っています。

【委員】

その緑の位置づけが、例えばこうやってすばらしいなど、こういう町並みに緑があるのは大変いいなと思いますよ。

ただ、それは一つ一つの維持するのに費用がかかる。都市型の児童公園でもどこでも。だんだんと大変なところは、もうコンクリにしようと、東京みたいなところも今、一生懸命やっている、雑草が生えて困るから。だけれども、どこまでこういう市として維持をしていくのにやっていけるかとの判断との中で、ある程度考えざるを得ないと思うのですよ。

工業団地だって、我々が最初引っ越したときは、一定の緑を植えなさいとあったのですよ。

だけれども、だんだん時間がたつと、駐車場があるねとかいうので、あまりもう今、言わなくて、ほとんど当社も緑のスペースがほとんどない、みんな駐車場にしちゃった。

だけれども、企業も環境という意味では、白井市も市町村の部では一番最初に環境のISO14001をとって、全国的に有名になったじゃないですか。

それと同じように、事業所だって環境という意味では、CO₂を削減とかいうのを目標に掲げてやって、当社もやっていますけれども、そういう側面と、この緑で価値を生み出そうというところと、何か枠組みが大きな目標のところから難しいなという感じを持って、取り組みがうまくいっていないということではないのです。そういうところがありますので、Bということで。

【会長】

評価としてはB評価ということで、中身も昨年同様、いろいろ意見を付した上で、最終的に報告書をまとめるということにはいたしますけれども、どうでしょうか、総合評価としてはB評価ということで、よろしいでしょうか。

じゃあ、そういった形で、基本的には今出していただいたような意見を改めて取りまとめさせていただきたいと思っておりますけれども、取り組みについては、取り組み中のグラウンドワークであるとか、二つ目の環境学習の推進、いずれにしても多角的に進めているということで、なかなか裾野を広げるということの難しさ、あるいは何をどこまでやればいいのかということの難しさもありますけれども、でも、その自然の価値というものをしっかり学んでいく、伝えていくという風な取り組みは着実にされているという点で、皆さんも高い評価を与えたと。

ただ、同時に、そういう取り組みというものが、まだまだ広がりという点では弱いのではないかとこの部分で、もっといろいろな方々が環境について意識できるとか、あるいは具体的ななかかわりを持っていけるような、その裾野を開いていくということが問われてくる。これは、その事業のあり方を改善していくということもさることながら、それ以外にももっと新しい取り組みというものを積極的にやっていく必要があるというふうな声がありましたので、一応そういったことも踏まえた上でのB評価ということにさせていただきたいと思っております。

あと、改善提案についていろいろ出していただきましたので、ざっと確認をしておきたいと思っておりますけれども、活動に楽しみを見出せるのかどうかという、要するに自分なりの視点、関心から環境活動にかかわっていく、そういう入り口とか、あるいはそういった活動の場あるいは方法というものを、もっと充実させていくことが必要なんじゃないかというふうなご意見ですとか、あるいは生活との接点というものをもっとつくっていきながら、それは先ほど申し上げたような、ごみの問題とかごみ拾いというところから、あるいはもっと、例えばキャンプによる体験だとか、いろいろなきっかけというものを駆使しながら、日々の生活の中で環境というものをもっと市民の方々が意識、自覚できるような、何かそういう雰囲気というものをつくっていくべきではないかというふうな視点ですとか、あとは、地元の方と連携してできることを一つ一つ模索していくということが大事じゃないかといったご意見もありました。

それから、さまざまな環境活動、保全活動への取り組みというものがあるけれども、もっとこういう取り組みがあるのだということ幅広く周知化させていくということももっと必要なのではないかというご意見。

それから、関心を高めてもらうという意味で、伝説の再評価を、要するに環境とのかかわりというのは、その地域によっていろいろな伝えられ方があるわけで、そういう伝説とともに語られているようなところもあれば、ある種、歴史であったり地域慣習であったり、いろいろなものがある。そういうものをひもときながら、白井は白井なりのこういう守り

方があるのだというふうなことを解きほぐしていくというふうなことも、これは環境史の学習で言われているところもあります。

それから、実体験というものをどれだけ積めるのかということ、これはいろいろな自然資源にもっと触れていくことができるようなきっかけとか仕掛けというものをつくっていくということが非常に大事だというご意見もありました。

それから、環境そのものの保全のコンセプトとして、いろいろな方々に知ってもらいたい、かかわってもらいたいという思いがある一方で、むやみに踏み込んでいくということに対する抑制という部分もしっかり考えていく必要があるというふうなご意見ですとか、あるいは、先ほど私が申し上げたように、環境の価値を守るといいのだけれども、どういう意味で守るのかをもっと掘り下げいく必要があるのではないかと。都市部的要素との共存というところに白井ならではの環境の価値というものを見出していくなどというのは、一つのコンセプトですけれども、そういったように、より白井における環境価値というものがどういうものなのかということ、踏み込んで捉えていく、逆に言うと、できることというものをもっとふやしていくということもできるかと思しますので、そういう環境価値そのものの位置づけなどということも含めて、いろいろ考えていくことがあるのではないかとというふうな視点を出していただきました。

ということで、なかなか難しい課題ではありますけれども、この取り組みについても、よりよい方向性を模索していただければということで、一応審議会としての評価というのは以上ということにさせていただきたいと思えます。

大体こんな感じでよろしいでしょうか。まとめにあたってはご相談させていただければと思えますけれども、一応、今言ったような視点を織り込みながら評価をさせていただくということにしたいと思えます。

ということで、一旦、評価はここまでということにさせていただきたいと思えます。どうもお疲れさまでした。